

ふりがな 氏名	とむら ゆめほ	都道府県	宮城県	
	戸村 夢帆			
所属/肩書	東北大学教育学部			
私のESD活動	教育学部に所属し初等教育を中心に研究。SOS子どもの村をトピックに、子どもの意思決定に関する論文作成			
ESD活動を表すキーワード	幼児教育	子どもの意思決定 784	国際関係	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は高校2年生の頃からオランダの初等教育に興味を持ち始め、自主的に調べ学習を進めてきました。オランダの初等教育を学んでいくことを通し、子どもは、私たちが思っているほど未熟な存在ではないため、大人（親、教師、地域の人）に求められる役割というものが時代に沿って変わっていくべきことを痛感しました。それは基本的に、「守る」という考え方の転換です。多くの人や物との出会いを制限してしまう（出会いから守ってしまう）ようでは、子どもの可能性が最大限に発揮されないどころか、望まれない問題も生じてきます。それゆえ現在の私の考えは、子どもが多くを学ぶための「環境を整える」ことが、大人の役割だということにあります。限定的な見方に思えるかもしれませんが、ESDには、教育が大きな役割を果たすと確信しています。教育の中でも特に重要視しているのは幼児教育です。幼児期に生活してきた環境やかけられてきた言葉などは、その子どもたちが成長していく中での選択行動に直接的に、かつ強く影響してきます。子どもにはそもそも、創造する力や好奇心が備わっていると思います。それを壊さないために重要になってくるものは、大人がどこまで子どもの人権を認められるか、ということにあると思います。上記のようなことをふまえ、私がしてきたESDに関係のある取り組みの一つとして、SOS子どもの村をトピックとして扱い、その児童保護制度を通して、子どもの意思決定と最善の利益間の関係性を考えた論文を提示します。大学内の多くの教授とコンタクトを取り、この研究を派生させ、今年設立された宮城県SOS子どもの村や海外のそれへの訪問視察を考えています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

まずは、大学だけに留まらず、色々なところへ出向いて様々な方法を目で見て、感じ取りたいと思っています。9月のカナダ訪問に加え、今年の冬にはドイツ・ウィーンを訪問し、地元の小学校・幼稚園を視察する予定です。来年の10月からは1年間のウィーン大学への交換留学を通して、様々なバックグラウンドを持つ人々へ、自分の考え・ビジョンを発信していきたいです。そしてUNESCOに関わりながら日本の外からだからこそできることをしていきたいと考えています。こういったことをスタートしていく上で、今回のイベントはとても有意義なものになるでしょう。